



荒川 栄悦 議員

一問一答方式

小さな拠点による 地域づくりについて

市長 地域の元気は
小さな拠点づくりから

問……………

地域コミュニティの自治力を育む方向を目指すために、一つに地域の課題については、住民同士が話し合い、解決策を考え、実践に移すプロセスを行政が支援する協働システムの構築が必要。二つに、自治会単位の地域づくり計画と、地連協単位の地区まちづくり計画を策定し事業実施の体制づくりが必要。三つに、自治会と行政区を

明確化し、行政からの業務の見直し、住民負担の軽減と住民が地域づくりに専念できる環境の整備が必要。四つに、地区センターは、地域運営・自治のサポートの役割に改めるべき等の進化まちづくり検証委員会の答申で始まった小さな拠点づくり構想を新市長はどの様に思うか。

答(市長)……………

自分たちの将来を、自分たちで開拓していく。



完成が待たれる鱒沢地区センター予定地

問……………
遠野市の観光振興における観光推進協議会と観光協会について伺う。

答(市長)……………

従来の体制の課題点として
1 行政や観光事業者、他の産業、市民、

観光推進協議会について

市長 一般社団法人遠野市観光協会が
観光振興のリーダーで

問……………

遠野市観光推進協議会は遠野市観光協会の上部団体であるように位置づけられた。現在の遠野市観光推進協議会を検証したのか。

答(市長)……………

一般社団法人遠野市観光協会が遠野市の観光をリードするという位置づけで進めていきたい。

新年度 ネットワーク・コラボ・ コーディネート を大事に

市長 これからの行政が担う役割。
進めていきたい

問……………

感染症の影響による海外人材を含む従業員の欠員に対して、人材確保支援を。

答(市長)……………

社会情勢を含めて、遠野の産業という観点で考えていく。

問……………

宿泊、飲食、理容・美容、クリーニング、交通事業者等へ幅広く

く、原油価格の高騰への対策を含めた、きめ細かい支援の充実を。

答(市長)……………

消費喚起に取り組んで行く。状況を見ながら幅広い支援に対応しなければならぬ。

問……………

観光振興、移住定住の促進、高齢者の社会参加等に、古民家の積極的な活用を。

答(市長)……………

遠野のポテンシャルを活かせる。関係者と座談会等で話をして、民間が事業を起こしていく形にこだわりたい。

問……………

社会的な孤立孤独への対応として、SOSを出しやすい環境づくり、日常的に介護を学ぶ機会の充実、丸ごと相談員の市内全地区への配置と活動サポートの充実、支援者や支援グループとの連携強化と支援の充実が求められるが。

答(市長)……………

丸ごと相談員を2名増やし強化する。誰でも支援を求めているこ

問……………

ろう者と聴者が共に生きる地域づくりを推進するため、基本となる手話言語条例を制定するべき。

答(市長)……………

誰もが手話を使い、意思疎通が普通にとれる自然の福祉を目指したい。取り組みを推進した上で、必要があれば制定する考え方で取り組むたい。

コロナ禍でも人間力を高める上で、読書は大切。

教育長 市民の読書の機会を守る図書館活動の推進に努めたい



感染症対策として図書消毒機も設置されています。

問……………

特にも子どもの読書活動の保障を。

答(教育長)……………

子どもの読書活動推進計画に基づき、学校図書館との情報交換及び連携を積極的に行う。